

【社会教育による学習】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
地域の子ども	各家庭だけでなく、地域で地域の子どもを育てる風潮があれば、子育てを支える環境は良くなると思う。
地域で学ぶ	羽村市の良さは、いろいろな団体やそれぞれの地域でいろいろな事業を展開している。大人は、それに参加し生き生きと活動している。子どもは、いろいろな体験ができ成長している。後に、羽村の良さを感じ取ってもらえることに繋がっている。
学びの場を通じた住民相互の「つながり」	社会教育の場の変化が予想される。
つながり	人と人をつなげるもの
地域とのつながり	子ども、青年すべての人が、今いる自分の地域に対して関われる工夫
地域とのつながり	子ども・若者の地域や社会への主体的な参画。子育て世代への支援。
地域とのつながり	年々希薄になっている地域とのつながりをどう増やしていけるか
近隣との交流	市内イベントの中止により、近隣住民との交流が更に減っていないか
地縁形成	人口減少・高齢化進展に向けた、人と地域をつなぐ地縁形成につながる学びが重要
社会教育を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人をつなぐ社会活動 ・住みよい地域づくりに多様な人材育成 ・地域の魅力
学校を核とした地域づくり	幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える
居場所づくり	親同士が知り合いになり、コミュニケーションが取れる環境が必要。
新しい地域づくりに向けた社会教育	持続可能な社会づくりを進めるために、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わっていくことが重要
つながる意味	PTAを通して考えるのは、人は一人で生き抜くことはとても難しく、必ず人の力を借りて生きている。またそうでなくては面白くない。そういったことについて考えてみたい。
地域コミュニティ	
体験活動	スポーツ活動・文化活動・体験学習・ボランティア・エコ活動など
体験、経験による学習	子ども・若者の地域や社会への主体的な参画。子育て世代への支援。
自然とのふれあい	町内会活動で様々な野外教育を実施している
対面とオンライン	ハイブリッドの学びが必要
インターネット	自由に使えるPCの設置はあるのか
IT教育	高齢者向け教育が以前は多かったが最近はどうか
オンライン教育が基本となる	新型コロナによる生活変化に伴い、オンライン化が加速、標準学習環境となる
デジタル技術習得	日本社会の生産性向上のためデジタル技術が国民レベルで習得されねばならない。また、各種学習にオンラインが有効活用されるので、生涯学習に有益。
サイバーセキュリティ	デジタル技術に固有の弱点なので、技術・法制・道義的対策が必要です。
詐欺・デマ対策	デジタル技術に伴う負の社会現象
オンライン	図書館の本や郷土博物館の展示などがオンラインでも閲覧できるようになれば、公共の施設から遠い所に住んでいる人でもサービスを受けることができるから。
デジタル化	
多様性の尊重	外国人、LGBT、障害者等への対応
多様性	社会の発展・強化には多様性が必要です。均質であれば組織運営が易しいという目先の利益はあるが、組織の周辺は開かれた社会であり、サービス不足・信頼喪失・社会変動などで適切な組織方針の選択ができない可能性が高くなります。積極的に多様性を求めるべきです。男女、人種、異文化、異能力、出生、経歴、…。
多様な社会教育	デジタル・ディバイドの解消に向けた取り組み

【社会教育による学習】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
社会的包摂	様々な人達を理解し、共に生きる上で必要。
社会的包摂（誰一人取り残さない）	羽村市が住みよい町であるために必須のこと、大前提です。
所得格差	年々貧富の差が広がり、ジニ係数が大きくなっている。今の貧困は見た目には分からない形だけに精神的ストレスが大きい。学習し努力すれば貧困から脱出できる社会にならねばなりません。片親家庭、病気で働けない親の家庭など子どもの貧困も指摘されています。
障害者	障害者の学習機会を少なくしてはならない。障害者差別は健常者でも能力差で差別することにつながる。障害の種類・程度に応じた学習機会が準備され、朗らかに学習できるように。
高齢者	健康、未病、病気療養中など高齢者の状況に応じた学習によって幸せな人生を全うできます。
社会的困難な若者	ひきこもり、就職難、介護離職、うつ病等社会的困難な若者が直面する困難を解決し社会参加できるような学習機会を与えられることは健全な社会のために必要です。
外国人市民	日本に出稼ぎや難民として来た外国人市民およびその家族は日本語が不自由で、低収入の場合が多い。労働力の不足した日本の下支えをしてもらっています。日本語を学習してより良い仕事振りをすれば収入も上がり、日本経済も助かる。彼らの日本での待遇が悪いことによって、彼らの母国での日本の評価は現状では低いようです。アセアン・中国など今後高齢化で労働力の少なくなった国が出稼ぎに行く国として選ばれ、日本が選ばれなくなるだろうという懸念も指摘されています。日本が選ばれる国になれば、日本の安全保障にも好影響が得られます。羽村市もキルギスなど友好国・都市と持つようになり、若者の視野が広がっているこの時期、足元の同じ市民の外国人に学習機会を提供し、かつその異文化を日本人市民も学ぶ政策を自治体として打ち出すべきです。
新しいライフスタイル創造のために学ぶ	定年退職後、興味のあるものに深く学び新しいライフスタイルを築くことができ生き生きとした生き方になるでしょう。
新しい時代の学びの在り方	3ステージ制からマルチステージへ生涯学習の変化が起きてくると予想するため。
専門性を生かし継続的に学ぶ	単に学校を出たということだけでなくそれから何を学んできたか。学歴ではなく、学習歴が重要に思う。子育てなどで社会から離れ、また、学び続けることが良いと思えるような社会であること。
いつまでも学べる環境	人生100年時代に備えた、伸長する生涯時間の中で何度でも人生を再設計し活躍するための学び
ワクワク・ドキドキ	自分のやりたいことができる、そのことが他人にも伝わる、広がる、やがて自分に戻ってくる。
楽しく生きる	人生を生きていく上で、ただ日々を生き抜いていくだけでは目標を見失いがちだと考え、知識を得る、得た知識を考察するといった学習を用いて楽しみを見出してほしい。
共生	社会教育を通じて育むもの
SDGs	学校教育で取り組む教育課題の一つ、学校教育以外でも必要な考え
求める力	年を重ねるにつれ思うのが、新しく学ぶことについての億劫さや一歩目を踏み出せない気持ちが出てくるように思う。そこを超えるための何かを身につけてほしい。
考える/創意工夫	「学ぶ」から「調べる」とか「考える」など、議論し、考えを高め、創意工夫する。
社会教育士	地域コミュニティの維持・活性化に期待できる。
食育	知育・徳育・体育これらを学ぶには、基本となる健康や体を支えているのが食育です。食事・栄養バランス・食材（栽培から収穫まで）等について、体系的に教育及び学習体験の場を設けていく必要があるのではないかと。
おもいやり	青少年地区委員会のスローガンに「育てよう 心と体とおもいやり」がありますが、心は文化や芸術で、体はスポーツで育てることができるが、おもいやりを育てるための柱となる施策が必要と思います。具体的には積極的なボランティア活動。

【社会教育による学習】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
地元の歴史を学ぶ	地元の歴史を学ぶことで、未来を築くことができる。QRコードなどで観光客も理解できるが、地元の市民にとって文化財を学び次の世代へと引き継ぐ必要がある。
子どもたちが誇りに思うふるさとづくり	ふるさとを愛する子どもの育成
心身強化活動	高齢者の軽スポーツ活動による体力の維持、ふれあいによる認知機能の維持
命を守る	自分の命を守ることは当然だが、それは自分事だけではない。社会が個々人を守る文化/制度があれば、他人の命も各個人が大切にします。それによって自分も救われます。
自然災害	自然災害が多発し、災害対策は欠かせない。自助・共助・公助が必要で、みんなで調べ・考え・議論し・演習する対策が必要です。
ウィルス感染症	コロナウィルスの挙動・性質や対策の情報は不十分です。早急に市民に情報が伝わるよう、学会・政府・自治体は情報提供し、感染防護の市民意識を高めるべきです。
健康・未病・予防医学	健康には広範な関心があり、学習対象も深い
アート/文化の振興	アートは学習の対象でもあり、学習を引き出す「感動」をもたらします。ICTの社会では、情報が多く、直観に頼らねばならない社会であり、美意識が強力な判断力の1つとなります。また、コンピュータが法律・経済・知識などを提供してくれるので、コンピュータにはできないアート/芸術が人間の活動として重要になると予測できます。現在でも、世界中の大企業の若手経営者がロンドンの芸術学校に派遣され学習熱が上がっているようです。
ボランティア/社会参加	人が幸せになる1つの条件が、利他的活動をすることです。人のためにする行いによって、自身の価値を納得できます。人のためには社会のためでもあります。また、人にありがとうと感謝するのは、その相手を幸せにすることです。他人を幸せにして自分も幸せになるのがボランティアです。多くの人が幸せになる自治体を目指す。 学習からボランティア活動へ、またその逆のボランティア活動から学習へという流れ；そしてボランティア活動から多くの人達とつながりを持ち、そのつながりから新たな活動そして学習へと広がり深まります。その無限の流れが人の幸せの無限です。
活動人口増加	活動人口増加は自治体の活力であり、郷土愛好人口です。また、公的に未踏な社会問題に取り組んでいるので、その課題は社会問題の提起でもあります。熟したボランティア活動団体は市との協働契約を結ぶものもあります。
ボランティアポイント制	ボランティアを「無料で働く便利な人達」「好きでやってるんでしょ」という扱いから、一定の社会的に認知された形をとって、ボランティアを増やす政策があるとボランティアを増やせるのではないかと。公的な感謝の印として、ボランティアポイントが記録され、ポイントは地域通貨として、年間の上限を付けて発行される方式が他の自治体で採られています。
隣接自治体と対抗スポーツ大会	互いの郷土意識を高めるよう対抗試合をする。例えば、福生市と市対抗サッカー試合をする。
福祉ボランティア活動の奨励	福祉ボランティアに限定すれば、介護保険の対象となります。稲城市や八王子市などでも実施されています。
障害者のスポーツ	障害者スポーツレクレーションなどの機会を増やし、日常的にスポーツを楽しむようにする。
障害者へのデジタル講習会（パソコン、スマホ、翻訳機、インターネット等）	社協でも行っているが、忘れないうちに次のステップに入るように学習密度を高めるとよい。

【社会教育による学習】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
障害者の創作活動	<p>いろいろの機会を捉えて、障害者が参加できるように。障害者同士の仲間ができるように。</p>
障害者のレクリエーション	
障害者のつどい/茶話会	
障害者の読書	
障害者へのWeb講演/お話/音楽会	
障害者の仕事	障害者の生き甲斐であり、積極的に職種を増やしていく。
生涯学習「公開講座」の制度化	ゆとろぎの講座活動を充実させる。
マーケティング相談所	商工会の各種ビジネスのマーケティング相談を受ける専門家を配置する。
羽村市国際交流協会設立	日本語学習、英語・多言語学習、提携外国・都市との交流などを行う。
社会人教育	国による社会人教育の制度化。国公立大学のオンライン講座を無料公開。各種資格の無料オンライン講座。有料ビジネスはより高度化する。産業界とも連携する。職業訓練も含む。外国人の日本語学習も。
羽村市広報はむら活用	最低限の知識・情報を市民に広く伝える。
生涯学習ビジネス育成	生涯学習のニーズを創ると共に、ビジネスにして内容を深化させるようビジネスを育てていく。

【学校教育による学習】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
ICT教育「学びの革新」	ICT教育は先生（教員）や生徒にとって、メリットもあるがデメリットもある中で、学習に対するモチベーションが高まり、楽しみながら効率的な学習を進めることができれば良いと思う。想像力が低下してしまうこともあるが、学校教育の中で、芸術やスポーツにも力を注いでいただければ良いと思う。
ICT	学びの保障、環境整備
ICT教育	地元の企業との共同教育を行う事は可能か
オンライン学習	コロナ禍の現状も踏まえて、オンラインによる教育・学習のシステムを構築していくことは重要。
オンライン	対面教育とオンライン教育を組み合わせたハイブリット教育の推進
オンライン	家にPCがない人が公民館で作業を行っている事例があった（参考）
授業動画の配信	①感染症対策 ②自ら学ぶ方法の一つとして ③不登校生徒、障がいのある生徒の学習方法の一つとして
リモート授業	
オンライン学習	
ギガスクール	これからの社会に対応した学校、指導の在り方として。
子どもとデジタル	今、子どもたちには様々なデバイスが溢れている。それに関して様々な意見が交わされているが、これからは生きていく子どもたちにとっては切り離せない物だと思う。個人としては否定的な意見が多く、もっと肯定的に捉えるための学習が必要と感じる。
体験、経験による学習	子ども・若者の地域や社会への主体的な参画
体験	戦争体験、職場体験等
体験学習	地域とのふれあいと体験
自然の中で	自然の中での原体験を多分教師でさえ持つ人は少ないのでは…。生きていく上で必ず必要だと思います。
コミュニティスクール（学校運営協議会制度）	「社会に開かれた教育課程」から導き出されるものとして
コミュニティスクール	羽村市として検討が必要
コミュニティ・スクールまたは地域の中の学校	
地域学校協働活動	・地域と学校の連携、協働における地域づくり ・家庭・地域・学校で共働で子どもを育てる
社会（地域）に開かれた教育	学校内だけでなく、保護者だけでなく、地域の人々等を巻き込んで子どもたちを守り、見守る、支える。保護者や子どもの孤立のないよう、福祉関係の方と連携を図りながら、全ての子どもたちを守る。
社会に開かれた教育課程	地域と学校が連携・協働して子どもたちを育成 →地域的人的・物的資源の活用→開かれた学校教育
地域とのつながり	子ども・若者の地域や社会への主体的な参画
家庭や地域との連携・協働	新学習指導要領より。
多様性	社会においては大勢ができないことをできる人が評価される。また、ある人は力仕事ができ、ある人は頭を使った仕事ができるなど、個人がそれぞれ他の人とは違うことを得意としており、全体として多様な能力を有している社会はそうでないものに比べて強靱であると思う。そのため、多様性が必要であると考えられる。しかし学校という場では、従来学力や社会的であることなどが画一的に評価されており英語以外の言語能力や絵を描く能力、一人で物事を推し進められる集中力などは評価されていなかった。むしろ、制服の着用が義務付けられる、服装に関する厳しい校則があるなど、多様性というものを排除しようとする傾向にある。そのような場で教育を受けた子どもたちは、多様であることの必要性をあまり感じられないと推測できる。そのため、より多様性を重要視した学校教育を行う必要があると考える。クラブ活動や地域と連携したボランティアなどを通じて、子どもの各々の独自の能力を評価できるとよいのではないかと。
地域との連携	
コミュニケーション	価値観、考え方の相違を認め合う
交流	多国籍の人との交流で、文化・生活の違いを体感する

【学校教育による学習】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
生きる力を身に付け、力強く生き抜く子どもの育成	・自分で課題を見つけ自ら解決する能力 ・他人を敬うなどの豊かな心 ・たくましく生きるための体力
グローバル人材の育成	これからのグローバル社会を考えて。
SDGs	学校教育で取り組む教育課題の一つ、学校教育以外でも必要な考え
自己有用感	社会の一員として必要とされていることを感じさせたい
自己肯定感	現在の児童・生徒は他国に比べて非常に低い
自由・平等・平和	主役は子どもと教師であるが、家庭の協力が絶対的に必要。教育の現状を親に伝えていることが大切。子どもを誰一人として取り残さないと思切に思う。
主権者教育	学校教育で取り組む教育課題の一つ 特に選挙権が18歳以上になったため
主権者教育	自分の考えをきちんと伝える。自己肯定と他者を認める。
主権者教育	
新指導要領	何を学ぶかだけでなくどのように学ぶのか。
新指導要領	
新指導要領	
学びに向かう力	新学習指導要領で求められている力の一つ
学びに向かう力	自分の気持ちを言う・相手の意見を聞く・物事に挑戦する等、親が子どもに身に付けてほしい力。
主体的・対話的で深い学び	新学習指導要領より。
主体的・対話的で深い学び	新学習指導要領で求められている学び方
アクティブ・ラーニング	子ども同士で学び合う、討論や発表を重視する。
成功体験	テストの点数だけではなく、体験や競争意識から出てくる達成感を味わうことは、とても重要と考える。
悔しさの教育	悔しさから学べること、感じるということがとても大事なので。
子どもの気持ち	今の子どもたちが考えていることを知る。大人が思う子ども像は自分の経験に基づくものの中で都合の良いものを元に考えていることが多く、実際と理想の違いについて考え、学習したい。
詰め込み教育からの離脱	実学の活性化、体験などによる実力、変化対応力を身につけることが重要
先生と親	学校に子どもを通わせる親の意見として、先生の対応がなぜこうなんだろう、こうするべきじゃないか等の意見を耳にする。実際にはプロとして親側では考えの及ばないことも考慮して進められているとPTAを通して感じることも多い。親と先生との思考差を埋められたらと思う。
学校の意識改革	
教師のリテラシー格差	新指導体制に対して、学ぶ側だけでなく、教える側の「学び」熟練度強化
羽村学	郷土のことが話せる大人になってほしい。
学校でのPC・タブレット配布	生徒全員に対する均等配布の実現性、端末寿命（5年）に対するケア
人間関係学導入	自立した個人とはどんな人か、友やパートナー・隣人との1対1の2人の関係で大事なことは何か、3人以上の集団や組織での振舞い方/考え方などは異なる人間関係です。人間関係の諸現象を学習する。会社や組織、ネット環境などでうまく対処できない人々が多いのではないだろうか。
受験勉強など学習施設/図書館併設	自宅学習に不具合な生徒などにも学習機会を与え、能力振り分け機構である受験に環境制約がかからないように。社会人も利用可、図書館の学習机を拡充させるもよし。
ボランティア活動	ボランティア活動を体験する授業があつてよいし、形だけでなく内容も充実させる。
自転車操作	自転車の安全な操作、走行活動による体力強化
社会人教育制度	国レベル

【家庭教育による学習】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
コミュニケーション	価値観、考え方の相違を認め合う。理解する力を養う。
コミュニケーション	家族の会話の時間を増やす取り組みはないか？
家族のふれあい	共に行動し、対話することで、思いやりやマナーが身に付いていく。
家族の時間	みんなで食卓を囲み、対話することで、コミュニケーションを取ることが大切。
あいさつ、対話	あいさつし、見知らぬ人とも話ができる子に。
近隣/友人知人との交流	あいさつし、見知らぬ人とも話ができる子に。
開かれた家庭	あいさつし、見知らぬ人とも話ができる子に。
自己肯定感	現在の児童・生徒は他国に比べて非常に低い
自己肯定感	諸外国と比べて日本の子どもたちの自己肯定感は低い。子育ての中で、褒めて育てる必要性。子どもが自分の居場所を感じられることも大事かと。
自己肯定感	家庭の中で、どれだけ高めてあげられるか。どんな方法があるか。
自己肯定感	大人の接し方、相談環境
自己肯定感	
愛と理解	子どもを愛することと理解することとは別。子は親の所有物ではない。貧困、ネグレクト、DV等にもっと目を向けていきたい。
尊重/愛情	尊重され、愛される子に。
主権者教育	自己肯定と他者を認める。子どもでも大人でも個人として認め合う。
主権者教育	今回のキーワードの整理の資料を見て初めてこの言葉を知りました。各家庭、共働きなども増えている中で希薄になっている部分かと思えます。ぜひ、取り入れたいと思います。
家庭教育こそ、未来を支える子どもへの大切な贈り物である	学校教育同様、地域のかこそ、不可欠である。社会、行政、企業などの力を合わせて、子育てを応援していく。社会が家庭の応援団であること。そして、家庭は常に子どもたちの心のよりどころであることを忘れてはならない。引きこもりがあってはならないが、万が一なった場合、文化協会の音楽、芸術（美術）など子どもが興味深いことであれば手助けしたい。
教育の出発点	すべての学びの元となるもの
人間として必要な基本能力	聞く能力、書く習慣/能力、話す能力、計算する能力、他人の心を推測する能力などを大切にする。
自ら学ぶ	生涯学習の基本姿勢と考えるため。
考える力、行動する力を養う	特に災害など、非常時に必要な考える力、判断力を身につける
格差による家庭教育の差	金銭、知識、思考、環境などによる教育格差を軽減する施策が必要
学力向上	家庭の環境や経済状況に子どもの学力は大いに影響を受ける。経済状況に問題がない家庭であっても、学力の必要性を親が認識していないため子どもに十分な教育を施せていないことが多い。学力の必要性に対する親の理解を促すことが必要であると思う。
親の学び	親同士のコミュニケーションを通じ、親も学ぶことが重要。
親とデジタル	今、子どもを持つ世帯の親と子どものデジタル機器に対する技量の格差が大きいと感じています。ツールが悪いのではなく、それを通して何を得るかが掴めていないのかと感じる。また、こういったことを考える上で個人では難しいことも多いので必要性を感じます。
リモート、オンライン	家庭設備、環境の充足
情報把握力	情報収集力の差、平等な情報提供力の必要性、オープンな情報提供
性教育	学校教育では扱いにくくあまり進んでいないが必要だと思うから。
読書	自分の子どもに読み聞かせなどを続けた結果、難しいと感じるのが読み聞かせから一人で読む部分への変化を作るのが難しく感じました。その切っ掛けを作れば良いと思います。
読み聞かせ	想像力がつき、いろいろな世界を描きだすことができる。
読み聞かせ	自分の子どもの頃、母や姉との読み聞かせが役立った
読み聞かせ	
祭りへの参加	あいさつし、見知らぬ人とも話ができる子に。
子育て支援	

【家庭教育による学習】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
学習支援の充実	何をしたらよいかわからないなどの支援を行う
外出	屋外に出て体を動かし、視野を広げる

【個人学習による学習】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
リモート学習	これからの学習方法の一つとして取り入れなければならない。
オンライン学習	これからの学習方法の一つとして取り入れなければならない。
オンライン学習	これからますます必要となる学習形態
ICT活用	多様な交流により学びの幅が広がる。
より広く・より深く	行政がどんどん情報発信。MOOCs。デジタルデバインド解消のための支援。
MOOC	キャリア教育にもつながる。活用の推進を図る。
趣味	自分の楽しみかもしれないが、そのような場に参加することが必要。
趣味	学びたい人、学びたい時に必要な場所、情報、機会を提供
趣味	いろんなことに触れ、感じてほしい
キャリア教育の充実	具体的な将来設計を考える。他人と協力する力を身につけ、将来のキャリアを築く上で必要となる能力を育てる。様々な意見を理解し、自分の意見を適切に伝え、他の人と協働する。自分の長所、短所を知る。そして、働く意義を理解し、将来をつなげて考え、目標のため行動する力、自分らしく生きるために必要な力を育てる。
キャリア教育	学びたい人、学びたい時に必要な場所、情報、機会を提供
命を守る	共に学び合い、生命や生活を守っていく。
命を守る	コロナウイルス感染等、正しい知識を学び合うことが大事。知った知識を他の人へ共有する必要性。
マルチステージ化	
自ら	個人学習は、人から勧められて取り組むより自ら気が付き取り組むことが大事であると思います。それが楽しく・長く続けられ、生きがいにも繋がると同時に、アウトプットで周囲に生かすことにより、地域社会への貢献にも繋がる。
学び続ける力	驚き、感動、興味
学び直し	いつでも誰でも学べるもの
自分磨き	個人の興味に沿って学ぶことが必要
インフォーマル学習	多様な場で自発的に学ぶことによって身に付く知識は非常に大切。
楽しむ	楽しいことを見つける。やりたいで止まらずに一步進むのにはどうすれば良いのかを考えたい。
創造	
チャレンジ	様々な物事にチャレンジする
モチベーション	家庭環境や個人の「学習」への熱意や想いの度合い差、継続力
専門的スキル	個性を生かせる場の提供
知識の共有	情報が簡単に集められる時代になったことで逆に多様性のある情報の中から必要な物を見つけ出すことが難しくなっている気がします。例えば同じくらいのスキルを持っている人たちがいて、お互いに情報交換ができるようなことができれば良いと思います。
コミュニティの充足	個人だけで陥るリスク回避のため、誰かに気軽に相談できる環境作り
友達と一緒に	何かを学ぶとき、同じ分野について一緒に学ぶ人がいるとさらにやる気が出ると思っている人も多いと考えられる。そのため、羽村市の中で勉強を共に行うコミュニティなどを作るとよいのではないかと考える。そして、そういったコミュニティを作るための支援をするには地域との連携が必要だと考える。
地域との連携	
コミュニティ	
金額	収入、生活費用の割合による学習機会を逸失しない環境づくり
時間と場所	安心・安定した環境での学習を促せるような場づくり
調査	デジタルデータ、専門的情報など調査ができ、データ処理/考え/アート作品/などの発表機会があるとよい。
推測/考える/反省	
感じる/アート	図書館、ゆとろぎの充実・強化。
読む/書く/計算	
図書館	
郷土博物館	
アプリ	文化・スポーツにおいて、一人でも学べるアプリ開発の支援

【個人学習による学習】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
レクリエーション	レクリエーションができる場所・設備等の設置を活用して知力を向上させる
スポーツ活動	スポーツを通じて、人間関係、礼儀、達成感、悔しさ等多くのことを学べる
ボランティア	人のために行動する喜びを共有する
起業	もっと簡単に起業できる環境を作りたい。出来るだけ元手をかけずに第一歩を踏み出すためにはどうしたら良いのか。スキルを持っている人が起業を試みようと思うキッカケは何なのか。小さい事業から始める術を学べれば。

【生涯学習を支える支援】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
リカレント教育	必要なことを必要と感じたタイミングで学び直せる環境が人生100年時代には重要だと思う。
リカレント教育	マルチステージ制を支える方法の一つとして。
リカレント教育	個人の成長と社会の発展につながるリカレント教育の推進
リカレント教育	今回の講演、資料で初めてその概念を知りました。こういった形で実現できるのか、とても取り組みがいのあるテーマ、キーワードかと思います。
リカレント教育	業務に役立つ学びだけでなく、高齢になってもできるように
リカレント教育	学びは大人になってしまえば終わりではなく大人になっても学ぶ必要性。
リカレント教育	
オンライン学習	これからますます必要となる学習形態
オンライン	統一性のあるオンライン教材や学習機会の提供。オンラインも元をただせば人と人のつながりの場であることを考え、繋げるオンライン環境を作りたい。
デジタル・ディバイドの解消	
情報教育	日々急速に進化を続ける情報化社会に、市民が追いついていけない状況が発生している。情報教育の推進・情報機器の活用方法の普及・インターネット等の利用方法の普及及び教育が必要とされている。
安心・安全	当然のことですが、全ての教育は安全と安心の基に成り立つものですから、自然災害や犯罪のない町づくりを最優先に考えます。
安全・安心	安全・安心な街でないと、生涯学習は成り立たない。
自立	不登校児についても社会に出させる環境が必要
自立	
学習機会の提供と充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりに合った学習機会の提供 ・対象者を絞った学習機会の提供 ・対象者に合わせた柔軟な学習機会の周知
活動の場の提供	学べる場を作ることで、学ぶ機会を得ることができる。
場所・機会の提供	催し物の実施・会場の提供など側面的支援
活動の場の提供	いろいろな形で増やしていきたい
場の提供	誰もが利用できる環境作り（ゆとろぎ、公民館などフリースペース構築）
情報の発信	多くのツールを利用した情報の発信による学習者へ側面的支援
情報の公開	参加を呼び掛けるネット・掲示板などのフル活用
積極的な広報活動	青少年健全育成等の地域活動に対する市民の意識が非常に低い。重要度がそこそこあるが満足度が低い。その理由に活動内容がわからない。従って、地区で活動している地区委員会及び育成委員会の活動は公的な組織ですので、活動内容を広く市民に伝える必要がある。どの活動にも言えることと思います。
人づくり	自立した人間として主体的に判断し多様な人々と協働しながら新たな価値観を創造する人材の育成
人材の育成	地域活動を円滑に進めるためには、中心となる人材が必要ですが、なかなかいません。そこで、現役を退いた方で、現役に教育や指導育成に関わっていた方（教職員や人事部）の経験者を発掘して、地域活動のコーディネーターとして、地域活動の人材の育成に当たる等の対策が必要と思う。
人材育成	
は はつらつと学び む 結び合う仲間と共に ら ラララと笑顔で 市 生涯学習	好きなことを学び、生き生きとした生活をしていく。そこには、仲間もでき、笑顔で人生を送ること、幸福度が増すであろう。学んだことを成果として発表する場は市ではいろいろな場所があるが、代表的なところはゆとろぎである。市民が借りやすいように、よりしていただき、みんなの拠り所であることを忘れてはならない。何よりも市民の笑顔が羽村市の発展につながる。
バリアフリー	この整備をもっと進めないと、インクルーシブは難しい。

【生涯学習を支える支援】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
活動の場	
活動の時間	
活動の人材	
活動の内容	
活動の継続性	
つながり	人と人をつなげるための支援
共生	社会教育を通じて育むもの
新しい公共	自治体、市民、民間団体との協働による様々な公共サービスの提供を担ってもらうことで公共サービスの質の向上を図る。
社会的弱者への支援	誰もが同じように生涯学習を実践できる環境整備
ボランティア	学校の授業についていけないがお金がなく塾に通えない小中学生に勉強を教えるボランティアを大学の友人がしている。小中学生の学力向上にとってもいいことであり、また、大学生などの教える側にとっても貴重な経験となるため良いと思う。もちろん、子どもに勉強を教えるボランティアに限らずボランティアを活用するのは良いことであると思う。
スキルアップ	
図書館	図書館の新しい利用方法、また生涯学習を目的とした形づくりを求めたい。
図書館	
ふれあい活動	特に高齢になるとふれあいが必要
高齢者	地域社会の主体的な参画をできるのが必要
ゆとろぎの市民の会	継続強化
図書館の図書宅配	継続強化
マーケティング相談所	羽村市の商工業の発展
羽村市国際交流協会	羽村市の中に閉じ籠らず、広く世界に目を向ける文化を育てる。外国人に日本語を、日本人に英語や多言語、そして文化交流を行う組織とする。
社会人教育制度	国の政策
図書館・ゆとろぎ建物のコロナ対策空調管理	コロナ感染対策として湿度、温度、強制換気管理をする
ネット環境の充実	市内のフリーWi-Fiの充実
老若世代の相互教育	高齢者の知識や経験などを、学生や若者に教える反面、若者からは、高齢者にPCやスマホ操作などリテラシー強化を相互に行う
モデルルートの提示	学習のゴールを示し、そこに到達するまでの道筋を明確に提示する

【澤野委員の講演で感じたこと】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
人生100年	マルチステージの人生、自分磨きの余生、今、着目されつつあることだと思う。
人生100年時代	生涯学習の変化の基になると考えたため。
人生100年時代、働き方はマルチステージへ	人生100年時代が到来し、「学び」は生涯で大切であり、キーワードである。いつでもどこでも学べる環境を作っていく必要がある。リカレント教育が注目されている。リンダ・グラットン女史の考えに共鳴する。100年ライフ。専門的スキル、知識、人脈、人間関係、評判、健康、友人関係、パートナー・家族との良い関係。自分について良く知る、多様な人材ネットワーク。新しい経験に対してオープンな姿勢。大変印象深い。60歳代の私たちにとって、これからどう生きるかヒントをいただいた。専門を生かし、学んでいきたい。そして、できるだけ長く健やかに生きて、生産性、活力、変身する力を養えたらと思う。
107才は本当か？	健康が保てるのであれば、年齢にこだわる必要はないと思えてきた。いろいろなことを見直されてくるのだなあと感じる。
無形資産	経験・体験により深まる教養、肉体的・精神的な健康と幸福は何よりの資産。
人生の無形資産	資料で提示されていた無形資産がとても大事な物だと感じました。もっと掘り下げて考えてみたいキーワードだと思います。
無形資産	活力資産（身体的・精神的な健康）
無形資産	人脈、健康と幸福、変身資産（新しい経験による変化）
人生の無形資産	活力資産、変身資産という精神性を資産としたのは正解だ。人間関係がとても重要だと指摘している。
知識基盤型社会	情報社会の骨格を示す言葉
知識基盤型社会の対応	物作り、学びを続ける
SDGs	子どもの夏の宿題で初めて概念を知りました。まだ詳しくは理解しきれてないのですが、これからの生涯学習とは切っても切り離せない関係ではないかと感じています。
SDGs	生涯学習にもSDGsと取り入れているところが、社会情勢も考慮した生涯学習を考えていると感じた
SDGs	SDGs自治体として基本計画に入れるべき。
SDG4	誰一人取り残さない、生涯学習の機会を促進する
地域活性化の推進	多様な主体の連携・協働し共に学びあうことが求められている。個人は、自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働し、新しい価値を創造する。社会は、一人ひとりが活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現、社会の持続的な成長・発展が求められている。
地域活性化	
命をまもる	最近、新型コロナウイルス感染症や自然災害により命を落としている方々が多く出ています。必要な知識を得たり問題解決に向けてお互いに学びあったりする機会の充実は、命を守ることに直結する。
命を守る	
多世代交流	子ども・若者が地域の活動や、問題解決に関わっていけばより、住みやすく、魅力ある地域になると思う。
子ども・若者の地域社会への参画	取り残されがちだが将来的に貴重。
GDPに占める公財政支出教育費の水準	世界から見た日本の教育への支援の低さ。個人の負担の多さ。改めて考えさせられました。
世界の教育費比較	GDP比率での比較は不適當。もし、福祉など他分野に手厚い国ならば教育費の割合は自動的に下がってしまう。購買力平価換算で比較した1人当たり公財政支出教育費で各国を比較すべきではないか。（計算結果を見ないと断定できないが）
ICT活用	デジタル、ディバイド解消
デジタルディバイド	ここ数年で特に大きくなったと感じます。分からない人が分からないまま何とかなってしまう社会もあり、全体として解消すべき問題だと感じます。
人づくり	自立した人間として主体的に判断し多様な人々と協働しながら新たな価値観を創造する人材の育成
コミュニティスクール	自治体の人材育成機関があるとよい。

【澤野委員の講演で感じたこと】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
コーディネーターの育成	
社会教育士	資格もった専門家として活躍を期待したい
女性（社会教育主事）	生涯学習に関わる女性の数が少ない
適正な評価	社会教育の場は男性優位という話を聞き、女性が不当な評価を受けているということであると思った。何かを学ぶときも成果を評価された方がやる気がわく。生涯学習において、学んだことを評価されるようなシステムが有るとよいと思う。
文化への参加	対話・対面によるコミュニケーションが絆を育むということに共感。
インクルーシブ教育	差別しない、誰一人として取り残さないというのはとても重要。
LEARNING TO BE	生きがい重視の生涯学習の構築にとても期待、希望が持てる。
新しい学び方	社会状況の変化及び技術の進歩を見た時、今までの講義形式の学び方だけではなく、新しい技術との組み合わせによる学習形式が求められてきている。
学び直し	個々の幸せの追求
マルチステージ	生涯学習の変化の基になると考えたため。
多様な社会教育	
自分磨き	
つながり	
自己の充実	
自己啓発	
チャレンジ	
知の循環型社会	参加することで、生きがいを持つ
学習＝秘められた宝	行動することを学ぶ、人間として生きることを学ぶ、共に生きることを学ぶ
グローバルネットワーク	ユネスコのグローバル学習都市ネットワークへの加盟。世界とつながり発信することが必要。
コロナ禍での役割の重要性	ICTの活用等。必要な情報を得る、課題に取り組む、どう解決するかなど。
学歴社会の弊害	一人の人物の能力を図るうえで学歴は一つの基準たりえるとは思っているが、どうも偏重傾向にある気がします。もっと人生は自由で良いのではないかと。
リカレント教育	上記の内容と少しかぶりますが自由な人生を送るために、様々な教育を受ける機会、またそれを試す機会があれば、学歴以外の人材評価につながるのかと思います。
地域における身近なスポーツ活動の整備	
再チャレンジ可能な環境の整備	
北欧	とても勉強になりました。
学校と地域の連携	パートナーシップの構築で市場変化に追従する
ポール・ラングランの学習機会の図	<p>世代区分と水平的区分（定型/不定形/非定型）に分けて具体的な形が見える。ただし、修正したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①幼児教育 ②学校教育 ③社会人教育・職業訓練 ④幼児遊び場・児童館 ⑤実習/ボランティア体験 塾・クラブ・習い事教室 ⑥社会活動・職業訓練 ⑦家庭教育/子育て ⑧自己学習

【澤野委員の講演で感じたこと】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
岡本薫の学びの宝 to know to do to live together to be	学ぶことが、実行、共生、自己肯定（幸せ）と一体である。ただし、修正したい。 感動する（to sense） 考える（創意工夫）（to think） 実行する（to act） 繋がる/広がる/他者のために（to relate） 自立（to be）
いつでもどこでも学べる環境をつくる	情報社会になって、過剰な情報に圧倒されないよう、自分の頭で考えて真偽、重要性などを判断できるように学ぶ環境を整備する必要がある。
—	「Society 5.0」は不適切概念。VRは情報社会の1技術であって、それ以上ではない。過剰な扱いをすべきではない。
旅は探究的・体験的学び	旅行の勧め、開かれた視野、未知への冒険/あこがれが活力となる。
開かれ、つながる社会教育の実現	地域づくりの根幹である。地域経済の基盤であり、長期計画の下で追及されるのではないかとことだと思われます。
情報提供方法、コンピュータの導入、バリアフリー設備、指導系職員などの不足	羽村市においての実態を調べ、早急に充実させるべき
多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習ー社会教育 ～命を守り、誰一人として取り残すことのない社会の実現	第10期中教審の議論を借用してよいのではないかな。
国際的発信力も低下	内向き傾向は低迷の始まり。

【第二次計画の背景となる社会情勢】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
新型コロナウイルス	まだまだ先の見えない中、教育の形も変わっていく流れがあり、より良い形を作ってあげたい。
新型コロナウイルス	これによって、学びの形態が大幅に変化しているため。
新型コロナウイルス	
コロナ	10年後はわからないが、今後5年先まではコロナ又は類似のウイルスを予防しながら生活する社会となっていると思われる。
コロナ	コロナ感染症対策と共に、発達を歪められた多くの青少年の傷跡を修復しなければならない。
新型コロナウイルスの克服	
新型コロナによる生活変化	オンラインが主となる社会が基盤になる
新しい生活様式	
AIを活用した学習	個人に合わせた学習計画や、性質に合わせた学習などカリキュラム構築
AI	
デジタル技術	広く国民の日常生活でデジタル技術を用いねばならない。効率も効果も圧倒的に優れた技術を広く国民に広めるには、デジタル技術者の側が、もっと適した日本語を使って日本語で使える技術にしていく必要があります。今日、日本語で高度な科学的思考ができていないのは、明治期に日本語を造語して作りだした文化人、福沢諭吉などがいるからだと思われます。英語でしか科学することのできない国は文化が遅れる。デフォルト、プロキシ、アクセスポイント、WiFi、・・・。英語を習得することは広く世界を知るためによいことです。でも日本語を大切に日本の私たちの文化を花開かせたい。
デジタル化	
デジタル・ディバイド解消	ICT活用は今後、更に加速し、重要になっていくと考えられるので、この格差の解消は非常に重要。
新しい学び方	社会状況の変化及び技術の進歩を見た時、今までの講義形式の学び方だけではなく、新しい技術との組み合わせによる学習形式が求められてきている。
リモート	在宅勤務などリモート会議といった流れを生かせないか
人生100年時代	心も身体も健康で、取り巻く環境に支配されるのではなく、自分らしく生きていけるために学びが必要。自分磨き
人生100年時代	人生100年時代に、充実した人生を送るための知識を得るための学びの場・機会を作るなどの側面的支援の充実を図る
人生100年時代	誰もが年齢に関係なく、自由かつ、自身の強みを活かした社会をつくる
人生100年時代	
SDGs	生命の尊厳を根本にした時、誰一人も置き去りにしない社会を作る
SDGs	学びの柔軟性・可能性
SDGs	
SDG4	質の高い教育を誰一人取り残さずに2030年までには大きな目標。
Society5.0	一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現
Society5.0	
Society5.0	
少子高齢化	少子化と高齢化が同時進行している。今後10年もその傾向は続くと予測されています。
少子高齢化	子どもたちと高齢者等の世代間交流を進めて、人間性の向上を
高齢化	世代比率の変化に伴い、学習内容、学習機会などの変化に追従
人口減少・少子化	
人口減少	高齢者が増え、学生が減る時代に向けた学習環境をつくる
羽村市人口減少	人口5年で2.5%減少（H22とH27の国勢調査による）

【第二次計画の背景となる社会情勢】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
命をまもる	最近、新型コロナウイルス感染症や自然災害により命を落としている方々が多く出ています。必要な知識を得たり問題解決に向けてお互いに学びあったりする機会の充実は、命を守ることに直結する。
命を守る	新型コロナウイルス・災害・不審者等から自分を守る力を育む必要がある
自分の身は自分で守る	新型コロナウイルス・災害・不審者等から自分を守る力を育む必要がある
グローバル社会	
グローバル化	
多人種	徐々にではあるが、日本にも他の国からの移住者が増えてきているように思います。もう、様々な所で文化の混ざり合いや考え方の相違などが起こっている。そこを擦り合わせられるような考えを持ちたいと思います。
外国人住民	高技能外国人以外に、日本の労働力不足を補うため技能実習生など外国人労働者を受け入れてきました。羽村市で1444人（2019.12.31）人口の2.6%とか。住民サービスの対象とするのみならず、日本語はじめ日本文化を理解してもらうため特に学習機会を提供する必要があります。
グローバル経済、外国人観光客	コロナ以前は、グローバル経済拡大し、10年前と比べて外国人観光客が急増しました。2009年680万人、2019年3190万人と4.6倍。
何とも…	一年前、こんな世の中が予測できた人は誰もいない。今後の社会情勢、何が起こるか、コロナ次第？
予測困難な時代	学習指導要領より
つなぎ、はぐくみ、ひびきあう 生涯学習社会の実現	
学ぶことは「喜び」である	学ぶことは想像力を育て、他人の感情を学び取る力をも育む。若い人たちだけではなく、高齢者も前向きに生きる、勇気さえ持たせてくれる。重要となる生涯学習の実現「誰一人として取り残さない」健康と幸福・社交、市民性・地域社会の生活・雇用・労働市場、バランスの取れた社会。
地域活性化の推進	多様な主体の連携・協働し共に学びあうことが求められている。個人は、自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働し、新しい価値を創造する。社会は、一人ひとりが活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現、社会の持続的な成長・発展が求められている。
自立	不登校児についても社会に出させる環境が必要
個人と世界とのつながり	多様な人的ネットワーク。Society5.0
無形資産	人間関係が大事、体験的学び、旅、教養（リベラル・アーツ）
地域の間関係の希薄化	
中止	イベントの中止が重なる中、今後のイベントで参加者離れが心配
論理的思考	学校の教育の中でプログラミング学習が入ってきたこともあり、論理的思考が求められてきていると感じます。そういった学習をしてこなかった人とこれからする子どもたちとの境界を少しでも埋める必要もあるのかと思う。
保護者の学校に対するニーズの多様化	
アメリカ大統領選挙があったこと	バイデンが当選したため、これからは持続可能な開発が注目されるのではないかと思った。
所得格差（羽村市ジニ係数？）	OECD諸国すべてジニ係数増加してきていて所得格差が広がっています。グローバル経済の効果で富めるものがますます富む社会です。でも富む者が固定化されるとその反動が来ることは歴史が証明しています。税金や寄付金などによって所得再分配の政策を強化すると共に、学習し努力すれば報われる社会にしていかなければなりません。
産業構造のサービス産業主軸化（羽村市産業構造？）	ものづくりの第2次産業からサービス第3次産業へと重心が移ってきました。

【第二次計画の背景となる社会情勢】	
キーワード	キーワードを挙げた理由・キーワードに関する思い（自由記載）
個人主義の伸長	ゲマインシャフトが衰退し、ゲゼルシャフトが伸長しています。人間の連帯感が減退していく傾向があります。会社社会の機能優先の文化が個人主義の傾向を助長しています。地域における旧住民と新住民の文化・考えの違いが衝突する場面もあり、一方では融和の動きもあります。
SDGs、幸福経営、働き方改革	企業経営の考え方、投資・融資の仕方、働き方も変化してきています。
羽村出入の通勤通学の変化	羽村市への入り通学通勤人数が6%減った。羽村市から出る人数は1%増えた。 羽村市から出る人数が増えたのは神奈川県・日の出町・小平市など、減ったのは三鷹市・渋谷区・日野市・新宿区など。 羽村市へ入る人数が増えたのは東村山市・小平市、減少したのはあきる野市・福生市。羽村市内々移動は10%減少しています。（H22とH27の国勢調査による）